

四季満喫する遊覧の場

写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 21 □



写真①は花見でにぎわう中川カルルス温泉本館（旧新中川10番）と、対岸の庭園（現料亭橋本側、中川1丁目4番）を結ぶ龍吟橋である。

明治33（1900）年、上長崎村の有志が、桜の木に囲まれた中川に小さな浴場と茶亭を設けた。東大名誉教授の医師で温泉学者だったドイツ人エルヴィン・フォン・ベルツ博士が推奨していた、チェコスロバキアの温泉地カールスバード（チェ

しむ遊覧の場となった。写真②は写真①の downstream で、桜並木が続く道路の奥が庭園である。道路上には花見客と人力車が見え、七輪に置かれた蒸籠（セイロ）とテーブルは団子売りの露店と思われる。この桜並木は、大正8（1919）年の地図には「現時廢路」と記されている。

田伊太郎は独力で道路を改修し、一の瀬川を挟む1300坪の敷地に橋を架け、樹木を植えて皆花園と名付けて和風の浴舎や、桜雲閣と名付けた酒樓を建設し、対岸（料亭橋本側）に庭園を設けた。ここは長崎の一大景勝地となり、春は観桜、夏は納涼、秋は観菊、冬は観雪を楽



上から①中川カルルス温泉と龍吟橋
②中川カルルスの並木道と八幡橋
③松嶋稲荷神社付近の桜並木
（いずれも長崎外国語大所蔵）

人力車夫と思われる法被を着けた男性と、しよゆうか酒と思われる樽を載せた馬を引く馬丁の姿は時代を映し出している。蜷茶屋から伊良林尋常小学校の前までの間に増植されて残存していた桜は中川桜と呼ばれ、大正の初期まで花見のシーズンには夜間に電灯をともして夜桜見物が盛んであった。

桜の名所であった中川付近の一の瀬川の川岸はコンクリートの三面張りに変貌し、住宅が川に迫り、昔の面影をしのべるのは料亭橋本だけとなっている。

（長崎外国語大学長）

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（http://www.nagasaki-gaiso.ac.jp/recnas/newspaper/）で見ることができます。



長崎外国語大のホームページにアクセスでき
QRコード

随時掲載します